

当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



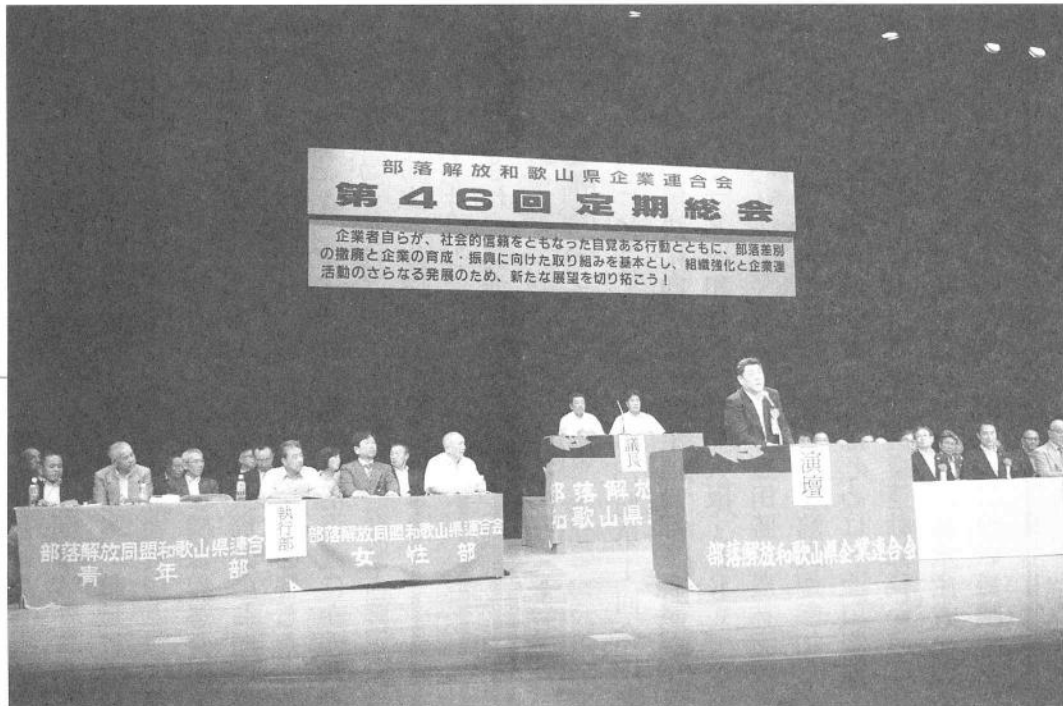
発行所
解放新聞和歌山支局

〒640-8314
和歌山市神前 405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302

発行責任者
藤本哲史

部落産業の育成と振興を 企業連総会

9月27日、和歌山市民会館小ホールで「部落解放和歌山県企業連合会 第46回定期総会」をひらき、会員約千人と多くの来賓が参加した。



あいさつする赤井隆史・中央財務委員長

企業連を代表して、瀧口秀光・理事長は「日本経済は、金融緩和や成長戦略などの経済政策をうけて、大企業を中心に業績改善の兆しをみせているが、部落の中小零細企業は仕入価格の

高騰や他社との価格競争などによって売上や所得の減少が続き、厳しい経営状態に陥っている。今年7月の参議院議員選挙では、自民・公明両党が過半数を確保したことで「安保関連法

案」をもとに「戦争がでる国づくり」へと突きすすもうとしている。戦争は最大の人権侵害であり、私たちは断固として「戦争法」廃止の運動をすすめなければならぬ。また『部落地名総鑑』の復刻版ともいえる示現舎による『全国部落調査』を発行・販売しようとした差別事件が発生するなど、悪質な差別事件があとを絶たず続発している。こうした状況をふまえて、昨年11月に「和歌山県集会・人権フォーラム」がひらかれ、現在「部落差別の解消の推進に関する法律(案)」が今臨時国会で審議されている。私たちは、企業連組織を結成して以来、今日まで会員相互の団結を図り、企業経営の安定と生活の向上、地域の雇用確保を運動の基本としてきた。今日の厳しい日本の経済・社会に企業者が対応できるように、きめ細かい経営指導をおこ

ない、部落産業の育成と振興にむけたとりくみをすすめる」とあいさつした。和歌山県連合会を代表して藤本哲史・執行委員長、赤井隆史・中央財務委員長のあいさつにつづき行政を代表して、下宏・県副知事と尾花正啓・和歌山市長から祝辞があった。その後、総会運営委員会報告、2015年度活動報告、決算報告、会計監査報告、2016年度活動方針案、予算案など、すべての提案事項が採択され、新役員の発表と瀧口理事長の代表あいさつで閉会となった。

- ◆来賓
 - 和歌山県
 - 下宏・副知事、北山芳宏・参事、谷巖・労働政策参事、出口博之・商工労働政策局長、南木芳亮・商工振興課長
 - 和歌山市
 - 尾花正啓・市長、有馬専至・産業部長、松村光一郎・産業政策課長、小嶋義之・商工振興課長、鈴木豪・都市計画部長、西本幸示・都市計画課長、坂口智己・市民部長、益田照久・人権同和施策課長、和田年晃・環境部長
 - 中央本部
 - 赤井隆史・財務委員長
 - 企業連
 - 國府英雄・理事長(京都)
 - 日本政策金融公庫和歌山支店
 - 新井秀樹・国民生活事業副事業統轄、森本博・中小企業事業統轄課長、野村文雄・農林水産事業統轄
 - 日本政策金融公庫田辺支店
 - 荒島史晴・総括課長
 - 和歌山県信用保証協会
 - 西田博章・常務理事
 - 和歌山商工会議所
 - 上田賢司・理事
 - 和歌山県商工会連合会
 - 湯川恭英・参与
 - 商工組合中央金庫和歌山支店
 - 河辺尚昭・支店長
 - 紀陽銀行本店
 - 上土谷武・人事相談室長
 - 企業連顧問
 - 仁木靖夫・税理士、橋本義彦・税理士、藪田雅秀・税理士、新井悠喜雄・行政書士、宮本澄磨・融資審査委員 (順不同・敬称略)

頑健 先日、ノーベル文学賞が発表され、ポップ・ディランが受賞。村上春樹を期待した人の落胆の声よりもポップ・ディランの受賞に驚きの方が大きかった。彼は、文学者ではなく、アメリカを代表するカントリー、フォークの歌手だ。『どれだけ砲弾を発射すれば、武器を永遠に廃絶するのか』一人一人に、いくつの耳をつければ、他人の泣き声が聞こえるようになるのか。「人はどれだけ死人をみれば、これは死にすぎだと気づくのだろうか」ディランの代表作『風に吹かれて』の一説だ。1960年代初頭の公民権運動やベトナム戦争のなかで、そのメッセージ性から、ジョン・バエズと並んで反差別・反戦平和運動の旗手とされた。歌詞の「その答えは、風に吹かれて」との抽象的な結論から解釈が大きく膨らんでいったのである。井上陽水をはじめ彼に影響をうけた日本の歌手も多い。ちなみに、森山良子は和製ジョン・バエズと称された。私も青春の頃に心がざわついた一人だ。ポップ・ディランが選ばれた経緯は不明だし、賛否両論がある。そんなことは別に、中東をはじめ世界中でいつ果てるとも分らない争いが起きている。そして、私たちの周りで差別が増大し、軍靴の足音が近づいてくる。こんな時だからこそ、一度ポップ・ディランの歌を聴いてみたらどうだろうか。もちろん、ジョン・バエズも： (S・I)